

目指す教師像

- 主体的に行動（目配り・気配り・思いやり）をする教職員
- 子供の心に寄り添い、大切に（言葉・態度）教職員

学校教育目標

自分を大切に まわりを大切にできる
わくわくほかほかがあふれる東野小にしよう

目指す子供像

- 自分で考えよりよく行動する子
- 思いやりのある子

実態

- 学校生活でやってみたいことがある児童（80%）
- 人と違うことをすることが不安な児童（76.5%）
- 自分の意見が言えないことがある児童（68.6%）
- 人が傷つくことを言うことがある児童（45.7%）
- 時間を守ることができていない児童（31.4%）
- 自分たちで授業を進められる児童（94.2%）

研究テーマ

わくわくして学びに向かうことのできる子供の育成
～思いやりの心・自律心を高めるDo talk教育～

手立て

- ①ほかほかの木
→嬉しかったこと、がんばり、いいところなどを書き、思いやりの心や自己肯定感を高める。
- ②わくわくの種まき
→やってみたいことを提案し、実現していくことで、わくわくを実感できるようにする。
- ③自由進度学習
→自分の学習を自分で決めることで自律心も高めていく。
- ④全校道徳の時間
→行事や話し合いたいことができたときに、全校で考えを深め合い、思いやりの心や自律心を育てる。
- ⑤ナッジ理論を活用した掲示
→指示しなくても自分で考えてよりよい行動ができるよう、理想の行動に気付かせる。
- ⑥Do talk 子供主体の授業
→beforeとafterを比較し、考えが深まったことを褒め、自己肯定感を高める。
→Do talk（積極的に話す）化することで、表現力を身に付ける。
- ⑦日記
日々考えていることを日記にできるだけ書き、表現力を身に付ける。

研究仮説

1. 自己肯定感を高め、表現力を身につけることができれば、主体的な学びに向かうことができるようになる。
2. 特別の教科道徳の内容項目A(1)自律、B(6)思いやりに重点をおき、思いやりの心、自律心を高めることができれば、自分で考えてよりよい行動ができる考動力が身につく。

※高学年はB(7)思いやり

課題

- 自己肯定感が低く、表現力に自信が持てていない。
- 思いやりの心、自律心を高める必要がある。
- 自分のやりたいことを表現する経験がない。

検証の指標

- 1-1. 児童の自己肯定感に関する児童アンケートの肯定評価の割合。
- 1-2. 表現力に関する児童アンケートの肯定評価の割合。
- 1-3. わくほかチェックシートの進んで勉強ができた日数。
- 2-1. 児童の思いやり、自律に関する児童アンケートの肯定評価の割合。
- 2-2. わくほかチェックシートのよりよい行動ができた日数。

達成目標

- 1-1. 「自分のことが好きである」、「どんなときでも自分の意見や考えを伝えることができる」と言える児童の割合を90%以上にする。
- 1-2. 「人と違うことでも自信をもって行動できる」、「自分の意見を言うことができる」と言う児童の割合を80%以上にする。
- 1-3. 「わくわく進んで勉強できた」と言える日数を学期ごとに80%以上にする。
- 2-1. 「まわりの人から大切にされている」、「時間を守っている」と言える児童の割合を80%以上にする。
- 2-2. 「わくわく進んで行動できた」、「まわりの方の気持ちを考えてほかほかな行動ができた」と言える日数を学期ごとに80%以上にする。